
空虚な夢

春桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空虚な夢

【Nコード】

N2926M

【作者名】

春桜

【あらすじ】

ウルキオラの夢は、何もなく空虚でそして意味のある夢。

（前書き）

グダグダです。字間違いあるかもです。

どれほど空を見上げたのだろう・・・。

世界に意味などなくてそれでも世界を想う自分がもどかしくて仕方が無かった。

闇が満ちて、光がある。それは絶対だ。

この世界にも闇と光は存在する。闇の俺は光を想った。

届かない夢を。

「君は何を望む？」

そう目の前に現れた男は問うた。

望むもの？この世界に何も無いのだ。望むものなど無い。そう男に言った。

「では何故涙を流すんだい？君が何も欲しないなら涙は溢れはしないよ。」

理解、意味、そんな言葉もわからなかった。何も無い世界にあるものはないから、欲とはなんだろう？そして・・・自分とはなんなのだろう？自分はなんのために生きるのだろう？

「君に意味をあげよう。私と共にくるがいい。君は意味が欲しいのだろう？」

意味、意味・・・。そんなものない。でもこの男は笑うのだ。俺を見るのだ。俺は・・・。

生きたい。

何故かはわからないが。

そうして、アランカルに俺はなつた。意味をくれた藍染様。彼を守ることが俺の生きる意味。そうだろう？

だがあいつが現れた。

笑う。笑う。花のような女。目が離せない。離したくない。

この痛みが心の痛みならばなんと美しくて遠いものなのだろう。

この痛みが俺を殺すなら、殺して欲しい。

それが．．．心なのだろう？

「さん！ウルキオラさん！」

「．．．．．。」

いつの間にか井上織姫のソファで寝ていたようだ。覚えていない。

「どうしたんですか？お昼寝の時間にはウルキオラさん、私より早

く起きてくれてお茶をいれてくれるのに．．．。」

「夢をみたんだ。」

「どんなですか？」

「．．．．．いつか意味のある夢だ。」

女が理解ができないというような顔で俺を見た。ああ、もう。

離したくない。

「ウルキオラさん．．．？」

俺は女を抱き寄せた。女の心臓の音が聞こえる。早く、小さく、大きくも感じた。

「望むものか．．．。」

「??？」

望むもの．．．そんなものない。
きっとそれは手に入りはしないから。

この空虚な世界に意味があるなら、俺はそれだけでいいのだろう。

そして彼女が笑うなら望まなくていい。

「女。今何を思った？」

「えっ？．．．．．恥ずかしいですけど．．．嬉しくて温かくて．．．
．ウルキオラさんを感じます。」

「．．．．．そうか。」

俺は少し笑ってみた。練習はしていてもうまくできない。それでも
女は俺を見て笑う。

ふと俺は想った。

何も意味のない世界を。そして彼女と見る月なら、意味が芽生える
気がした。

（後書き）

藍染様と出会ったときのウルはきつと泣いていたと思うんです。姿は作者様書いて欲しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2926m/>

空虚な夢

2010年10月13日13時15分発行